

### (3) 藻類

#### (ア) 藻類の概要

藻類は、酸素発生型光合成を行う植物から種子植物（裸子植物、被子植物）、シダ植物および蘚苔植物を除いたものと定義されており、11の植物門を含む多様な生物群である。もっぱら水中を生活域としているが、その生育域は必ずしも水中に限らず、湿った土壌、岩石や樹木の表面や割れ目など、水分のある場所ではどこでも見ることができる。また、他の生物の体内に共生するものもあり、地衣類が藻類と菌類の共生体であることや、サンゴに共生する褐虫藻類はよく知られている。

埼玉県は直接海に面していないため、県内に産する藻類は淡水藻類に限られる。これらの藻類は、ほとんどが単細胞性または群体性で、肉眼での観察は困難なものが多い。県内には荒川水系以外の大きな河川や湖沼、高層湿原などは見られないものの、西部の亜高山帯から東へ向かって山地帯、丘陵地帯および平地部が連なり、各地に小規模な池沼や湿地が散在するほか、灌漑用の溜池も多いので、淡水藻類の生育環境としては変化に富んだ水域が広がっている。

このため、早くから県内の淡水藻類相に関する多くの報告がある。1998年版「埼玉県植物誌」(1998)にまとめられた、なんらかの形で県内から報告された藻類は、変種や品種も含み藍藻類71種、紅藻類10種、黄色鞭毛藻類8種、黄緑色藻類14種、珪藻類744種、渦鞭毛藻類8種、ミドリムシ藻類67種、緑藻類589種、車軸藻類21種の合計1,532種で、褐藻類、有色鞭毛藻類、緑色鞭毛藻類に属する藻類は含まれていない。「日本淡水藻類図鑑」(1977 内田老鶴圃)は、珪藻類を1,500種と想定し、わが国の淡水藻類相を3,808種と見積もっているので、県内ではその40%程度が報告されていることになる。

しかし、これらの報告はそのほとんどが1980年代以前に報告されたものであり、1980年代以降県内の藻類相についてのまとまった報告はほとんど見られない。淡水藻類は、一般に広範な分布域を持つものが多いので、県内で記録された藻類もそのほとんどが日本各地に普遍的なものである。

#### (イ) 選定にあたって

今回の改訂にあたっては、前回の改定（改訂埼玉県レッドデータブック植物編2005）で取り上げられた種に加え、改訂後に報告された種、および2009～2010年の調査によって記録された種について再検討した。評価のカテゴリーは環境省のレッドリストカテゴリー（2007）に準じているが、藻類は定量的に評価できるような過去のデータが不足しているうえ、県内全域にわたる十分な調査が行われているとは言い難いので、基本的には定性的要件に基づき評価した。また、今回の改定では絶滅危惧ⅠA類（CR）と絶滅危惧ⅠB類（EN）は区別せず、絶滅危惧Ⅰ類（CE）とした。

2005年の改定後、今日まで得られた情報と今回の調査期間に確認された種は、紅藻類のオオイシソウ、アオカワモズク、イシカワモズク、カワモズク、チャイロカワモズク、ミョウテンジカワモズク、トレボキシア藻類のカワノリ、車軸藻類のシャジクモの8種類であった。

紅藻類のオオイシソウは、鶴ヶ島市の2地点で用水中の水草の茎や水底の小石に付着して生育しているのが確認された。本種は、かつて県北から群馬県、栃木県、茨城県にまたがる低地一帯で報告されているが、本庄市の備前堀川では1995年頃までに消滅した（中村1996）。アツカワオオイシソウ、オオイシソウモドキ、チスジノリは今回の調査でも確認されなかった。これらの種はいずれも希少種で過去の記載地での生育は消滅したと考えられているが、周辺域に生残の可能性があり、最後の確実な記録から50年を経過していないので、今回記録されたオオイシソウとともに前回改定時のランクを修正し、絶滅危惧Ⅰ類（CE）とした。

カワモズク類のうち、*Batrachospermum polycarpum* および *B. radians* の2種は、それぞれカワモズク (*B. gelatinosum*) の異名または非合法名とされる（熊野2000・熊野他2007）ため、今回のリストから除外した。チャイロカワモズクは、これまで県内では記録されていないが、今回の調査では都機川以南の丘陵地および荒川西台地域の7地点で記録されたことから、新たに追加し

た。ミョウテンジカワモズクは、須貝・熊野（2010）によって和光市新倉の湧水井戸から、日本新産品種として記載されたもので、今回の調査でも同市白子の市場峡の湧水で記録された（原口、未公表）ため、絶滅危惧Ⅰ類（CE）として収録したが、今後確認のための調査が必要である。本種はカワモズクの品種として報告されているため、確定した場合はカワモズクの学名を変更する必要がある。

車軸藻類のシャジクモは、今回の調査期間中に水田を中心に9地点で記録された。長瀬の岩畳に散在する小池や、一部の水田では旺盛な生育が見られ、過去5年以上継続して生育が確認されている例もあるため、当面消滅の危険は小さいと考えられ、これまでの絶滅危惧Ⅰ類から絶滅危惧Ⅱ（VU）へ評価を下げた。シャジクモ以外の車軸藻類は、いずれも旧版「埼玉県植物誌」（1962）に収録されたもので、萩島（1959 a, b）をもとに記載されているが、以後今日まで確実な生育記録は県内から報告されていない。最後の記録からほぼ50年を経過しており、情報が不足しているために今後の確認調査が必要であるが、絶滅危惧Ⅰ類（CE）として収録した。テガヌマフラスコモは、これまで環境省レッドリストでは絶滅（EX）とされてきたが、近年手賀沼湖底泥の培養によって発芽し保存に成功したため（森嶋他 2002）、2007年のリストでは野生絶滅（EW）へ移された（渡邊他 2007）。本種は、本県では上尾市の原市沼、岩槻市の慈恩寺沼および川越市の伊佐沼からの記録があるが、これらの沼地は現在では大幅に改変され、富栄養化の進行が著しく、車軸藻類の生育は見られない。

丘陵地帯と低地帯よりなる県東部域は、かつては淡水紅藻類や車軸藻類の分布地として重要な地域であったと考えられるが、高度経済成長期以降の大規模開発によって県土の改変が著しく、また人口の急増による水質汚濁は深刻な状態となっている。藻類は水質汚濁や水域の人工的改変に最も影響を受けやすく、容易に地域的絶滅を引き起こす可能性がある。水質、水量の確保はもとより、水域に近接する陸域の自然環境の保全が、藻類の安定的な生育にとって極めて重要な課題となっている。

収録した藻類の和名および学名は、これまで「日本淡水藻類図鑑」（1977）に準拠してきたが、今改訂版では原則として環境省「レッドリスト（2007）」で用いられる和名・学名に従って表記した。このために多くの種で和名・学名を変更したが、旧来の表記も併せ表記した。

#### ウ) 文献

- 千原光雄・中村 武（1975）：紅藻オオイシソウモドキ属の日本における生育。藻類，23, 150-152.  
原口和夫（1995）：埼玉県荒川水系におけるカワノリ（*Prasiola japonica* Yatabe）の分布と着生環境。埼玉県立自然史博物館研究報告，13, 29-35.  
長谷井 稔・中村 武（1980）：関東のオオイシソウ科藻類。遺伝，34（8），67-73.  
廣瀬弘幸・山岸高旺（編）（1977）：日本淡水藻類図鑑。内田老鶴圃，東京。  
伊藤 洋（編）（1998）：1998年版埼玉県植物誌。埼玉県教育委員会，833pp.  
環境省（2007）：レッドリスト。http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648.  
小林 弘・山岸高旺・萩島陸巳（1962）：藻類。埼玉県植物誌 埼玉県教育委員会，285-338.  
熊野 茂（2000）：世界の淡水紅藻類。内田老鶴圃，東京。  
熊野 茂・新井章吾・大谷修司・香村真徳・笠井文絵・佐藤裕司・洲澤 譲・田中次郎・千原光雄・中村 武・長谷井 稔・比嘉 敦・吉崎 誠・吉田忠生・渡邊 信（2007）：環境省「絶滅のおそれのある種のリスト」（RL）2007年度版（植物Ⅱ・藻類・淡水紅藻）について。藻類，55, 207-217.  
右田清治（1996）：チスジノリ。日本の希少な水生生物に関する基礎資料（Ⅲ）。357-360。  
森嶋秀治・佐野郷美・野崎久義・加崎英男（2002）：絶滅日本固有種車軸藻テガヌマフラスコモ *Nitella urcata* var. *fallosa*（シャジクモ目）の千葉県手賀沼底泥からの回復。植物研究雑誌，77, 139-142。  
中村 武（1980）：関東産チスジノリ属藻類について。藻類，28, 249-254。  
中村 武・千原光雄（1977）：関東における紅藻チスジノリ属の生育。藻類，25, 163-166。

- 中村 武 (1996) : 絶滅の恐れのある植物群の生育状況と保全について—淡水紅藻オオイシソウ類とチスジノリの現状報告と貴重な地域の自然を題材とした環境教育—. 南教育センター研究紀要, 9, 20-23.
- 荻島睦巳 (1949) : 武蔵野の小川におけるオオイシソウの分布. 採集と飼育, 11, 228-229.
- 荻島睦巳 (1959a) : 埼玉県下の車軸藻類. 採集と飼育, 21, 2-5.
- 荻島睦巳 (1959b) : 埼玉県産シャジクモ属の分類と分布. 埼玉生物, 1, 20-23.
- 埼玉県 (2005) : 改定埼玉県レッドデータブック・植物編. 358pp.
- 須貝郁子・熊野 茂 (2010) : 日本新産品種ミョウテンジカワモズク (新称), *Batrachospermum gelatinosum* (L.) De Candolle f. *spermatoinvolucrum* Vis et Shearh とその生育地について. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 4, 71-76.
- 渡邊 信・笠井文絵・熊野 茂・吉田忠生・千原光雄 (2007) : 藻類のレッドリストの見直しについて. 藻類, 55, 203-206.

3001 (オオイシソウ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 **オオイシソウ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

〔学名〕 *Compsopogon coeruleus* (Balbis) Montagne (= *C. coeruleus* Montagne)

【評価所見】 1967～1994年の調査では、本庄、熊谷、蓮田、加須、栗橋で生育が確認されている（長谷井・中村 1980）。本庄市の備前堀川では、1980年までは多数生育しているのが確認されたが、1995年までに消滅したとされる（中村、1996）。今回の調査期間中鶴ヶ島市の2地点で記録されたため、評価を変更し絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 鶴ヶ島市の2地点

【県内生育状況】 流水中の小石や棒杭、水草の茎などに付着して成長している。

【特記事項】

3002 (オオイシソウ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 **アツカワオオイシソウ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔学名〕 *Compsopogon corticrassus* Chihara et Nakamura

【評価所見】 1995年時点では、行田市の見沼代用水で多数生育していることが確認されている（中村 1996）。今回の調査では確認の報告はない。生存の可能性はあり、最後の報告から50年を経過していないため、前回改定の評価を変更し絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 基準産地の行田市の見沼用水では確認されず、他の地域からの報告もない。

【県内生育状況】 小河川や用水路の水底の石や硬い土、コンクリート壁、水草などに着生する。

【特記事項】

3003 (オオイシソウ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 **オオイシソウモドキ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔学名〕 *Compsopogonopsis japonica* Chihara

【評価所見】 行田市埼玉古墳内の農業用水路から千原・中村（1975）により報告されたが、以後確実な記録がない。群馬県境町近傍の利根川河川敷でも絶滅したとされる（熊野他 2007）。最後の報告から50年を経過していないので、前回改定の評価を変更し絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 池沼、河川、用水路などで水底の小石や水草などに着生する。

【特記事項】

3004 (チスジノリ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 **チスジノリ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

〔学名〕 *Thorea okadae* Yamada

【評価所見】 本庄市の備前堀川で初めて記録された（中村・千原、1977）。1975～1976年には豊富に見られたが、1977年を境に消滅（中村、1980）し、既に絶滅したものと考えられている（右田 1996）。しかし、最後の報告から50年を経過していないので、前回改定の評価を変更し絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 河川、用水路など流水中の礫やコンクリート護岸、橋げたなどに着生する。

【特記事項】

3005 (カワモズク科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 **イシカワモズク** (ヒメカワモズク)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔学名〕 *Batrachospermum atrum* (Hudson) Harvey (= *B. gallaei* Sirodot)

【評価所見】 今回の調査中2地点、二次メッシュ分布では2区画から報告されているが、確認個体数は500を超えない。環境省ランクではCEにランクされているが、本県での確認件数は少ない。確認地では旺盛な繁殖が見られるが、河川改修や農薬汚染による消失の危険がある。

【県内分布状況】 荒川西台地から丘陵南部に分布する。

【県内生育状況】 湧水池や調節池の護岸木柱や水中の枯れ枝などに着生している。

【特記事項】

3006 (カワモズク科)

〔和名〕 **カワモズク**〔学名〕 *Batrachospermum gelatinosum* (Linnaeus) De Candolle (= *B. moniliforme* Roth)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類 (CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU)

【評価所見】 2005年から2010年の間に19件の報告があり、二次メッシュ分布では4区画から報告されている。確認地では3000を越す場合もあるが50以下の小規模な場合もある。地元で保護に当たっている場所では消失の危険は小さいが、河川敷開発や農薬汚染などによる消失の危険がある。

【県内分布状況】 荒川西台地から丘陵南部一帯に分布する。

【県内生育状況】 湧水池や池から流出する小河川、用水堀の水底の小石や棒杭に着生している。

【特記事項】

3007 (カワモズク科)

〔和名〕 **アオカワモズク**〔学名〕 *Batrachospermum helminthosum* Bory (= *B. sirodotii* Skuja ex P. Reis)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類 (CE)

全国カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

【評価所見】 今回の調査では4地点、二次メッシュ分布では3区画で記録されている。個体数はいずれの場所でも500を超えない。本種は環境省リストにあるが、本県での確認例は少ない。河川敷開発や農薬汚染による消失の危険がある。

【県内分布状況】 都幾川以南の丘陵地南部域に分布する。

【県内生育状況】 用水路（二面護岸、無護岸）の水底に着生する。

【特記事項】

3008 (カワノリ科)

〔和名〕 **カワノリ**〔学名〕 *Prasiola japonica* Yatabe

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU)

【評価所見】 1984年までの調査では17地点での生育が確認されている。今回の調査では13地点、二次メッシュ分布では7区画から報告された。分布が山間の渓流域に限られるため、当面消滅の危険は小さいと考えられるが、日照が本種の生育要因として重要であり、河畔の樹木の発達による日照不足が衰退原因となる可能性がある。

【県内分布状況】 荒川水系上流の秩父系の地層で、海拔高度300～800m、夏季の水温19度以下の区域に限り分布する。

【県内生育状況】 溪流中のチャートに着生する。

【特記事項】

3009 (シャジクモ科)

〔和名〕 **シャジクモ**〔学名〕 *Chara braunii* Gmelin

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU)

【評価所見】 今回の調査期間中に、水田を中心に9地点、二次メッシュ分布では7区画から報告された。長瀬岩畳に散在する小池群や一部の水田では旺盛な生育を見せ、過去5年以上継続して観察されている例もあり、生育地では消失の危険は少ないと考えられるため、評価をCRからVUへ変更した。小規模な水田等では土地利用の変更や農薬汚染による消失の危険がある。

【県内分布状況】 県中部の丘陵地から荒川西台地、加須低地のほか長瀬の岩畳四十八沼に分布する。

【県内生育状況】 主に水田にまばらに点在あるいは一面に生育する。

【特記事項】

3010 (シャジクモ科)

〔和名〕 **イトシャジクモ**〔学名〕 *Chara fibrosa* C. Agardh ex Bruzelius (= *C. fibrosa* subsp. *gymnopitys* Zaneveld)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類 (CE)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、日高市の千丈池(現仙女ヶ池)・谷津池、入間市の東金子に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3011 (シヤジクモ科)

〔和名〕 **カタシヤジクモ**〔学名〕 *Chara globularis* Thuillier var. *globularis*

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、比企郡竹沢の大谷池に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 湖沼や池、溝など静水域に多く見られシヤジクモ帯の主要構成要素となる。

【特記事項】

3012 (シヤジクモ科)

〔和名〕 **ハダシシヤジクモ**〔学名〕 *Chara zeylanica* Klein ex Willdenow (= *C. zeylanica* Willdenow)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、日高市の千丈池(現仙女ヶ池)に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 湖沼や池などで深さ1~2m以浅に生育するほか、汽水域にも生育する。

【特記事項】

3013 (シヤジクモ科)

〔和名〕 **チャボフラスコモ**〔学名〕 *Nitella acuminata* A. Braun ex Wallman var. *capitulifera* (Allen) Imahori (= *N. acuminata* Braun var. *capitulifera* Imahori)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE) 全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、南埼玉郡白岡町の柴山沼、大宮市(現さいたま市)大宮公園および大里郡寄居町鉢形の水田に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 日本および中国(台湾)の特定の湖沼にのみ生育する。

【特記事項】

3014 (シヤジクモ科)

〔和名〕 **ハナビフラスコモ**〔学名〕 *Nitella erecta* Imahori

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、日高市の千丈池(現仙女ヶ池)に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3015 (シヤジクモ科)

〔和名〕 **スエヒロフラスコモ**〔学名〕 *Nitella expansa* Allen

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、日高市高萩の谷津池に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3016 (シヤジクモ科)

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE) 全国カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 ヒメフラスコモ

〔学名〕 *Nitella flexilis* (Linnaeus) C. Agardh var. *flexilis* (= *N. flexilis* (Linnaeus) Agardh var. *flexilis*)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、戸田市および比企郡都幾川村(現ときがわ町)明覚に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3017 (シヤジクモ科)

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE) 全国カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 フタマタフラスコモ

〔学名〕 *Nitella furcata* (Roxburgh ex Bruzelius) C. Agardh var. *furcata* (= *N. furcata* (Roxburgh ex Bruzelius) Agardh var. *furcata*)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、幸手市高須賀沼に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3018 (シヤジクモ科)

埼玉カテゴリー 絶滅(EX) 全国カテゴリー 野生絶滅(EW)

〔和名〕 テガヌマフラスコモ

〔学名〕 *Nitella furcata* (Roxburgh ex Bruzelius) C. Agardh var. *fallosa* (Morioka) Imahori (= *N. furcata* Agardh var. *fallosa* (Morioka) Imahori)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、上尾市の原市沼、川越市伊佐沼および岩槻市(現さいたま市岩槻区)の慈恩寺沼に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。本種は環境省カテゴリー EX にランクされてきたが、手賀沼湖底泥から発芽・飼育されたため(森嶋他 2002)、EW にランク変更された。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3019 (シヤジクモ科)

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 キヌイトフラスコモ

〔学名〕 *Nitella gracilis* (Smith) C. Agardh (= *N. gracilis* C. Agardh)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、大里郡江南町(現熊谷市)の弁慶沼、比企郡小川町に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3020 (シヤジクモ科)

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 ヒナフラスコモ

〔学名〕 *Nitella gracillima* Allen var. *gracillima*

全国カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、日高市高萩に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3021 (シヤジクモ科)

〔和名〕 **サカゴフラスコモ**〔学名〕 *Nitella inversa* Imahori (= *N. megacarpa* T. F. Allen var. *inversa* Imahori)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、大宮市(現さいたま市)大宮公園に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3022 (シヤジクモ科)

〔和名〕 **ニッポンフラスコモ**〔学名〕 *Nitella japonica* Allen (= *N. megacarpa* T. F. Allen var. *japonica* Imahori)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、大宮市(現さいたま市)大成、大里郡寄居町男衾・鉢形、大里郡江南町(現熊谷市)および行田市小針沼に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3023 (シヤジクモ科)

〔和名〕 **アメリカフラスコモ**〔学名〕 *Nitella megacarpa* Allen (= *N. megacarpa* T. F. Allen var. *megacarpa* Imahori)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、比企郡小川町に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3024 (シヤジクモ科)

〔和名〕 **ケフラスコモ**〔学名〕 *Nitella multiparatita* Allen

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、日高市の千丈池(現仙女ヶ池)・谷津池、比企郡小川町に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3025 (シヤジクモ科)

〔和名〕 **ナガフラスコモ**〔学名〕 *Nitella orientalis* Allen

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、桶川市に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 低地の富栄養の浅い湖沼のみで生育する。

【特記事項】



3026 (シヤジクモ科)

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE) 全国カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 ミノフサフラスコモ

〔学名〕 *Nitella pseudoflabellata* A. Braun var. *mucosa* (Nordstedt) F. M. Bailey (*N. pseudoflabellata* A. Braun var. *mucosa* (Nordstedt) Bailey)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、日高市の高萩・北中沢および比企郡小川町に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3027 (シヤジクモ科)

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 ホンフサフラスコモ

〔学名〕 *Nitella pseudoflabellata* Braun var. *pseudoflabellata*

全国カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、大里郡江南町(現熊谷市)の大沼に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3028 (シヤジクモ科)

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 ハデフラスコモ

〔学名〕 *Nitella pulchella* Allen

全国カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、日高市高萩の谷津池に記録があるが、以後今日まで確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】

3029 (シヤジクモ科)

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 フラスコモダマシ

〔学名〕 *Nitella imahorii* R. D. Wood (= *Tolypella gracilis* Imahori)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 旧版埼玉県植物誌(1962)では、大宮市(現さいたま市)の大宮公園および今羽に記録があるが、以後確実な記録がない。最後の報告から50年を経過していないため絶滅危惧 I 類とした。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 不明

【特記事項】 和名については、これまでニッポンフラスコモダマシとなっていたが、改名しフラスコモダマシとなった。

3030 (カワモズク科)

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 チャイロカワモズク

〔学名〕 *Batrachospermum arcuatum* Kylin

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 今回の調査では7件、二次メッシュで4区画から記録されている。確認地では500以上が見られることもあるが、多くは500以下である。地元で保護対策が講じられている湧水池では消失の危険は小さいが、他では河川敷改修や農薬汚染による消失の危険がある。

【県内分布状況】 都幾川以南の丘陵地南部及び荒川西台地の南部域に分布する。

【県内生育状況】 湧水池や小河川、用水路の水底の小石や水草の茎などに着生する。

【特記事項】

3031 (カワモズク科)

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE) 全国カテゴリー ランクなし

〔和名〕 ミヨウテンジカワモズク

〔学名〕 *Batrachospermum gelatinosum* (Linnaeus) De Candolle f. *spermatoinvolucrum* Vis et Sheath

【評価所見】 須貝・熊野(2010)によって日本新産品種として和光市から報告された。原記載地と同じ二次メッシュ区画内の他の湧水池からも確認の記録があるが、個体数は250を超えない。本種は産地極限種であり継続調査の必要がある。原記載地の湧水井戸では蓋をしてしまうと照度不足になり衰弱・消失の危険がある。

【県内分布状況】 和光市の限られた水域に分布する。

【県内生育状況】 湧水井戸のコンクリート枠、湧水池の鉄枠等に着生する。

【特記事項】